



# 各務原市 少年の主張 発表会 プログラム

発表生徒集合 11:50  
◆リハーサル 12:00 ~ 12:30

開会式 (13:00 ~)

1. 開会のことば  
(各務原市教育長 高根 靖臣)
2. 主催者の挨拶  
(各務原市青少年育成市民会議会長 森 真 市長)

3. 来賓・審査員紹介 (★: 審査員 順不同 敬称略)
  - ・各務原市自治会連合会代表 奥村 和彦★
  - ・各務原市小学校長会代表 岩田 誓志★
  - ・各務原市中学校長会代表 中村 敏朗
  - ・各務原市PTA連合会会長 野田 洋志★
  - ・各務原市子ども会育成協議会会長 野中 好子★
  - ・各務原市青少年育成市民会議副会長 荻谷 眞行★
  - (県青少年育成推進指導員)
  - ・各務原市教育委員 (職務代理人) 岩田 重信★
  - ・各務原市教育長 高根 靖臣

4. 審査について (市PTA連合会長 野田 洋志)  
(ステージ準備)

## ◆発表会

☆発表順は、抽選により決定しました。

番	学校名	学年	氏名	性別	題名
1	川島中	3	横井 夕満	女	世界の貧しい人々
2	那加中	3	高木 彩海	女	私たちの未来
3	鵜沼中	3	柴山阿恵香	女	一步踏み出す勇氣
4	稲羽中	3	田中 幹也	男	大切な仲間と言葉のチカラ
5	桜丘中	3	長嶺あかり	女	祖母とともに
6	中央中	3	北村 佳子	女	飯館中学校を訪れて
7	川島中	3	水谷 賢	男	環境問題を改めて見つめて
8	那加中	3	戸谷 円香	女	家族とのつながり
9	稲羽中	3	長縄 咲希	女	「理想」
10	蘇原中	3	桂川 美咲	女	いのちに触れて
11	緑陽中	3	渡辺 有記	女	人とのつながり
12	鵜沼中	3	細井 香七	女	言葉を紡ぐ 言葉で紡ぐ
13	蘇原中	3	角 優月	女	本でつながる私の絆
14	中央中	3	坪内 千佳	女	言えなかった「ありがとう」
15	桜丘中	3	入江 隼多	男	癡癡という名の怪物と闘う僕
16	緑陽中	3	吉野 夢希	女	鳴子踊りがつなぐ絆

当日、題名が変更されていることがありますのでよろしくお願ひします。

◆ふれこみ隊の活動発表 (15:00~15:10)

◆審査・休憩 (15:10~)

鳴子おどりご生まれに絆

三年 吉野 夢希

地域の人たち、全国の人たち、世界の人たちと心と心をつないでくゆる鳴子おどり。私は、この鳴子おどりが大好きです。

みなさんは鳴子おどりを知っていますか。鳴子おどりは、もともと農作物をねらう鳥はじを追いはらうための農機具を両手に持ち、市民の健康と繁栄を祈願するために高知県で始まりました。今では全国、さらには世

界にも広がっています。

そんな鳴子おどりと出会ったのは、小学校二年生の頃。ただ友達に誘われてほんとは、あるチームに入っただけでした。しかも、せっかくおどりを覚えたも、最初は見られるのが恥ずかしく、人の陰でおどっているだけでした。けれど、そのおどりを動かしたのは、おどりを通じて生まれる人とのつながりでした。

各会場で行われるイベントでは、他のチー

ムと、どちらからともなく声をかけ合います。  
「おはようございます。」「がんばってください。  
い。」「おつかれさま。」そんな短い言葉の数々  
が、いつも不思議なほど私の心を温かくする  
のです。

また、私がおどろいているチームはニアと  
ニコニアに分かれています。それぞれの振  
りはニアチームのメンバーが教えてくださ  
います。ニアの方々は学校や仕事があるの  
で、自分たちの時間を割いて教えてくださる

のです。その教え方は優しく熱心で丁寧  
です。そんな姿を見ているので、私たちにニコ  
ニアチームも自然に仲間と教え合うようにな  
ります。このようなチーム内での支え合いは、  
男女や年齢に関係なく行われ、幅広い人間関  
係のあはらしさを教えてくれるのです。

そして、このおどろきは私を世界の人ともつ  
なげてくれました。

私は毎年、高知県に行き、本場のよさをい  
鳴子おどろきを見ています。高知県では、地域

くるみどよま、こいに参加していて、三世代で  
行っている家族もいます。そしてなんと、外  
国の方も多く参加しているのです。昨年行わ  
れた日本と真ん中祭りは、世界から韓国、  
中国、サイパンの海外チームも参加してい  
ました。どのチームも毎年八月に名古屋で行  
われるこの祭りに向かって、一年間練習をし  
て臨みます。私は、みんなが手を取り合い一  
緒におどるうちに、言葉がなくても互いに笑  
顔をかわし合っていていくこの時間がとても好き

3  
です。

おどろきというのには、人のびとびとを自然に触  
れ合わせる力があり、たとえ言葉がなくても  
外国の方ともつながっていける架け橋のよう  
な存在だと感じずにはいられません。私がこ  
うして鳴子おどりに関わっているように、そ  
の地域の伝統文化やその地域で行われている  
行事に参加していくことは、その架け橋の一  
歩を踏み出すことだと感じます。その一歩が  
多くの人にちとつながるまっかけをたくさん

生み出してしてくれるのです。

昨年、日本中を悲しみに包んだ東日本大震災が起こりました。震災の影響で一瞬にしてテレビなどの内容が変わり、日本中から笑顔が消えました。私に何かできることはないだろうか。

そう考えているとき、東北にメッセージを伝える復興イベントが一宮と犬山で行われるという話を聞きました。私は少しも早く日本を元気にしたいと思い、すぐに参加を決め

ました。三月とは思えない寒さの中での鳴子おどり。けれど、東北の方のことを考えると寒さも吹き飛びました。そんな寒さ中でも、小さな子から車イスに乗ったお年寄りの方まで幅広い年齢の方々が、私たちにのおどりを通じて笑顔にほり積極的に募金活動に参加してくださりました。その場にあふれるにくさんの優しさ。人が人をおもうことと生まれていく絆。その後、震災の時刻に合わせて黙禱をしながら、東北の方々とその場にいるみんなと

私と心を一つにできたように感じました。

おどりがそこに集まる人と人をつなげ、心をつなぐ。そこから絆が生まれ世界をつなぐ。こんなあはらしい鳴子おどりを、その場所の温かさをたくさんの人に知ってもらいたい。楽しさを感じ笑顔になってもらいたい。おどりを通じて、たくさんの人とつながりたい。多くの出会いを楽しみにしながら、今年も、祭りの季節が始まります。